

◎ムコスタ錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 レバミピド rebamipide 【分類】 胃潰瘍治療剤

【単位】 ◎100mg/錠

【常用量】 300mg/日

【用法】 ■胃潰瘍：1日3回朝・夕と眠前

■急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期における胃粘膜病変（びらん、出血、発赤、浮腫）の改善：1日3回

【透析患者への投与方法】 減量の必要なし (5)

【その他の報告】 直接胃粘膜に作用して効果を発揮するため減量しないが、腎不全では血中濃度が上昇するため要注意（新薬と臨床 44: 1179-82, 1995）

【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要なし (5)

【特徴】 胃粘膜プロスタグランジン含量増加作用、胃粘液量増加作用を有する防御因子増強剤。潰瘍面を均一な粘膜で再生し、再発・再燃を抑制する。血中に移行して作用するのではなく、直接胃粘膜に作用して効果を発揮する。

【主な副作用・毒性】 ショック、アナフィラキシー、血球減少、肝障害、過敏症、女性化乳房、浮腫、動悸、脱毛など。

【安全性に関する情報】 HD 患者において汎血球減少症の症例報告（大石明子, 他: 腎と透析 54: 123, 2003）

【吸収】 吸収率約 10% (1)

【tmax】 約 2hr (1)

【代謝】 肝代謝され、そのままグルクロン酸抱合されるか、8-水酸化体がグルクロン酸抱合される (1) CYP3A4 により 8-水酸化体が生成し、その活性は弱い (1) CYP を阻害しない (1)

【排泄】 尿中未変化体排泄率 10% (1) であるが、F が不明のため低いとは断定できない (5)

【腎 CL】 273mL/min (1)

【t1/2】 6.2hr, 透析患者：9.2hr（新薬と臨床 44: 1179-82, 1995）

【蛋白結合率】 98.4～98.6% (1)

【分布】 胃内に高濃度で分布 (1)

【MW】 370.79

【透析性】 資料なし (1) 蛋白結合率が高いため、透析で除去されにくいと思われる (5)

【TDM のポイント】 TDM の対象にはならない

【透析患者の薬物動態】 単回投与の Cmax は正常腎機能者で 184ng/mL なのに対し、透析患者では 679ng/mL に上昇（新薬と臨床 44: 1179-82, 1995）透析患者に反復投与しても蓄積しない (1)

【O/W 係数】 0.60 [1-オクタノール/水系, pH7] (1) 【pKa】 3.3 (1)

【更新日】 20200905

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等で確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。